

2020年度 明治大学

【国際日本学部】

解答時間 60分

配点 150点

ほ



国語問題

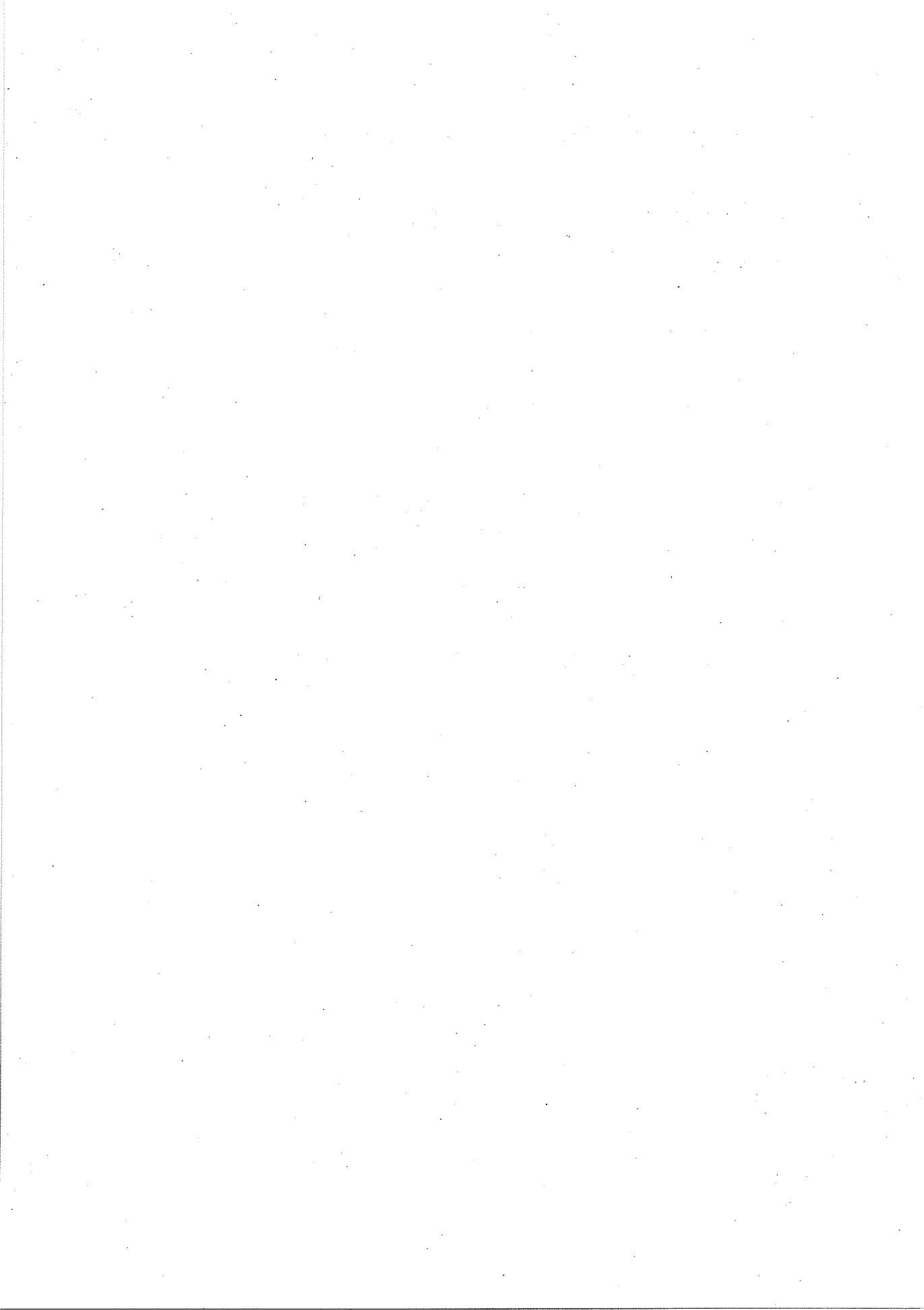
はじめに、これを読むこと。

(注意事項)

1. この問題用紙は24ページまでである。
2. 解答用紙の所定の欄に、必ず氏名を記入すること。
3. 解答用紙には受験番号が印刷されているので、受験票と照合して受験番号が正しいかどうか確認すること。
4. 解答はすべて「解答用紙」の解答欄に記入またはマークすること。解答欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入すること。
6. 訂正は消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
7. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
8. 文字は一点一画まで正確に書くこと。不正確な文字は不正解と見なされることがある。
9. 解答用紙は持ちかえないこと。
10. この問題用紙は必ず持ちかえること。
11. 試験時間は60分である。

(マークの記入例)

良い例	悪い例
	



(一) 次の文章を読み、後の問に答えよ。

社会生物学は、ダーウインの進化論を用いて、生物の集団的行動を説明しようとする試みです。たとえば、働き蜂が女王蜂の子どもを育てる場合のように、動物の一見利他的に見える行動が、どれだけ自分と近い遺伝子を効率よく残す行動に由来しているかといった点を説明してきました。

ただ、それは同時に、ヒトの性差や性別分業、婚姻、攻撃性や社会階級など、様々な人間社会の現象をも考察の対象としました。しかもウイルソンは「人文科学や社会科学も単に生物学の特殊な研究領域にすぎなくなる」との見通しを示したのです。そのため、政治的な対立を交えた激しい論争が巻き起こりました。

当時の社会科学研究(特に社会学や人類学など)においては、ナチス・ドイツの教訓もあり、生物学的な議論を人間社会の現象と混ぜることに非常に慎重になっていました。人種衛生学が政治運動と結びついた過去の記憶が生々しかったからです。

そのため、社会生物学を批判する人々は、ヒトの行動を生物学的に説明することが、いかなる社会的影響を与えうるかについて、研究者は気をつけるべきだとの指摘を行いました。また、ウイルソンらの主張は無自覚に、経済的不平等を肯定し、男女の生得的な違いを誇張して捉える政治的イデオロギーを反映しているとの批判もなされました。このように考えた人々は社会科学の研究者だけに留まらず、ステイブーン・J・グールドや、リチャード・ルウォンティンといった生物学者もいます。

当時の社会生物学の創始者たちは、真つ向からこの批判に反論しました。彼らにとっては、批判者たちの方こそ、人間が平等で環境が全てを決定するという左派の政治イデオロギーを科学に押しつけて、研究の自由を損なおうとしていると映ったのです。また、社会的影響への配慮の必要性という指摘については重要性をあまり認識せず、女性の役割や同性愛者、経済的不平等といったセンシティブな問題に対し、仮説にもとづいた記述をすることをためらいませんでした。

現在では論争は一段落しましたが、完全に終結したというよりは、支持者と批判者が論争に飽きて棲み分けたという趣もあります。また、時代が変わり、自然科学研究全般において、社会への影響や倫理的な側面を考慮する風潮が高まったことも両者の

緊張感を下げたようです。

社会生物学の問題関心は行動生態学などの分野に引き継がれ、今日も研究が進展しています。他方では、従来の社会科学の諸分野も、特に生物学の影響を受けることはなく、従来通り探求され続けています。結局の所、学問の統合よりは、人間社会について考える新しい分野が増える結果に終わったのでした。

興味深いのは、従来のな数学を用いる形式化・定量化の方法論と比べて、社会生物学の方が人文社会科学とは相性が悪かったという事実です。科学哲学者のダニエル・アンドレルはその要因として、社会生物学の中に、人文社会科学の諸分野にとつて基盤となる「社会的なるもの」や「人間性」のような概念を書き換えかねない要素があったこと、そして人間社会に関する進化論的説明が、人文社会科学の課題への回答を与えるものではなく、魅力的でなかったことなどを指摘しています。

たとえば「人間集団の攻撃性についての進化論的説明」のような問題は基本的に、数万年のスケールで考える問題です。しかし、具体的な政策に関わる定量的分析や、特定の社会・経済的問題の定性的分析などは大抵の場合、数十年くらいの時間を対象にすれば充分です。^b両者は、扱う時間のスケールも、要求される回答の性質もかなり異なっていたのです。

社会生物学を巡る激しい論争は、広く社会に関わる問題を扱う学際的な分野のもう一つの特徴を物語つてもあります。^cそうした分野は、学術コミュニティを超えた政治的な論争にも巻き込まれやすいのです。

自然科学関係の話が続いたので、人文社会系に関わりの深い事例をあげましょう。たとえば、フェミニズム、カルチュラルスタディーズ、ポスト・モダニズム、科学技術社会論など、いずれも二〇世紀後半に論争の対象となりました。形としては「科学」であろうとしたマルクス主義などもその例に入れてもいいかもしれません。

「総合系」の環境科学は、現在進行形の国際政治と関わるだけあって、更にダイナミックです。政治、産業界、メディアを巻き込んだ議論の戦場となってきました。特にアメリカでは地球温暖化が起きるかを巡り、科学者と政治家が双方の陣営に分かれて争ってきたことがよく知られます。

学際的な研究が学問の世界に閉じず、このような政治論争に至ってしまう背景には、主に次の二つの要因があります。第一

に、まさにその分野が、社会の中にある複雑な課題を扱うことができているために、学術コミュニティを超えて人々の関心を惹きつけて、論争が誘発されやすくなります。

第二に、多くの人に関わるのに、そうした複雑な課題を扱う研究は、まさに複雑であるがゆえに、はっきりと物事に白黒を付ける答えは出せません。ゆえに、対立が継続してしまいます。これは、人文社会科学だけではなく、自然科学的な方法論が使われている場合でもさほど変わりません。

自然科学と社会の双方が関わる複雑な問題は、それが切迫した主題であるほど、自然科学をもつてしても、明確な答えがすぐに出せない場合が多いのです。たとえば、公害による健康リスクのように、時間をかけて(あるいは人体実験により)検証すれば答えが出るかもしれないが、社会的にそれは困難であるというような場合があります。もしくは倫理的な問題のように、もともと科学では答えが求められない性質の問いを含んでいる場合もあります。クローン人間を造つてよいか、といった問題がその例です。

特に現実の社会問題が関わる場合、時間の問題は重要な要素です。たとえば地球温暖化の場合は、「予測の正しさが証明されるときには相当な犠牲者が出てしまう」というジレンマが存在します。そのため、研究が導く解答が確実だとは言いつれない状況でも、「どうするべきか」という意思決定に貢献することが期待されます。

地球温暖化問題においては、問題が起きる前に手を打つ「予防原則」の立場から、気候変動条約やCO₂削減といった様々な政策的措置が動き出しました。結果として、反対する人は「科学的な結論が不確定なうちに政治が動き出した」との印象を抱き、研究の不備や政治的偏向を主張したりして論争が続くことになったのです。

このような状況を否定的に捉えて、政治論争が起きるような学問はまともでない、政治的中立性がないとの結論に飛んでいく人もいます。あるいはその逆で、科学的な検証を行って出した答えに反対する人がいるなんて信じられない、理性的ではないと叩く人もいます。

私自身は、カントのように、論争の存在自体を肯定的に捉える立場です。それも、彼よりは一步踏み込んで、ある学問が人間

社会に関わる切実な対象を扱うほどに、その学術的な論争と、政治的論争との間の境目が不明確になっていくのはやむを得ないし、だからこそ論争が必要だと思つています。それは、人間の認識能力の不完全さと、対象の複雑さとが合わさったとき、何らかの政治性が生まれてしまうことは避けがたいと考えているからでもあります(なお私は、「政治的であること」と「党派的であること」を区別しています。前者は「市民生活においてどの価値を優先するか」ということ、後者は「誰の味方か」という人間関係的な側面のことです)。

環境科学の例が示すように、どんな学問分野をもつてしても、完全に世界を認識し、記述できるシステムはありません。もしそんなシステムがあるとしたら、それはこの世界そのものに他ならないでしょう。それ以外のものは、どれだけ確かな方法を駆使したとしても、不完全なものでしかあり得ません。何らかの形で、必ず情報が欠落しているのです。どの情報を減らすかは各分野の選択であり、それは一種の価値観の反映でもあります。

V

そのため、複雑な系、たとえば経済活動のような人間社会の営みや、自然界であっても気象現象のような複雑な対象の予測はしばしば当たりません。すると、研究結果の導く結論をめぐる、対立する意見が不可避に生じることとなります。特にそれが、経済政策や環境政策のように、何らかの具体的なアクションを想定している場合は尚更です。^d複雑な系を扱うがゆえの不確実性も政治を呼ぶのです。

そのことに加えて、そもそも、ある社会的課題を扱う／扱わない、という選択自体が、既に一定の政治性を帯びています。研究に関与する研究者がどれだけ誠実に、理性的に、学問の基準に則して行動しようとも、あるテーマを選ぶというその行為自体は、社会における何らかの立場表明としての意味を持つのです。このことに、人文社会系、理工医系の差はほとんどありません。

たとえば、「適切な多数決投票の方法を数学的に検証する」のようなテーマを研究したい経済学者がいるとしましょう。一見、特別な政治性は感じないかもしれませんが、独裁政権の支配する国であれば、「国民による多数決を行う政体を想定している」ために警戒されるかもしれません。

それは独裁政権がおかしいだけではないかという話ではなく、ここで言いたいのは、少なくともそのようなテーマが彼らにとつては全く「中立」に映らないだろうということです。もし私たちにとつてその主題が「中立的」に見えるとしたら、それは私たちが「民主主義は当然のこと」という価値観が普及した地域にいて、他の価値観をさほど想定せずに済んでいるからです。

理系が関わる例でも事情は変わりません。一九七〇年代、八〇年代の日本では、環境問題を研究テーマに選ぶ理系学生は民間企業での就職が大変になるといわれていました。マジヨリテイが環境問題に関心がなかった時代、敢えて環境に関心を持つことは「偏ったこと」とみなされかねなかったのです。現代ならこの感覚はむしろ逆でしょう。

「地球環境を気にかけること」も「民主主義を自明視すること」も、それぞれ一つの価値観であり、政治的信念の一種です。ただ、その価値観がマジヨリテイにとつて一般的になつてきている時代、地域ではそのことが目立たないだけです。

もちろん、「テーマの選択が政治性を持つ」ことは仕方ないにしても、それは研究の過程に政治性が入り込むこととは違うのではないか、という指摘は可能です。

たとえば、公害問題や、歴史上の虐殺事件といった問題に対し、ある組織や人物にとつて不利になる証拠を隠蔽した上で論文を書いたとしたら、それは「政治的」かつ「党派的」なデータの隠蔽ですし、研究不正に等しい行いです。

論争になりやすいのは逆のケース、すなわち証拠として用いる材料を広げる場合です。たとえば、教育を受けた役所の人間が残した文書記録や、定量的に計測可能な証拠といった従来も用いられていた判断材料だけではなく、知的障害をもつ人の数十年前の記憶や、コンピュータによるシミュレーションなど、確実さにおいて劣る要素を持ち込む場合、前者は「実証的」だが後者は違ふとして、拒否されることがあります。そして、そのような不確かなものを研究の材料に使うのは、政治的な意図があるからだと糾弾されたりするのです。

事例ごとに事情は違ふので、一般化は困難なのですが、科学史を踏まえて私が思うのは、どちらかといえば、検証する対象を増やす方が、検証の厳密さを求めてそれを避けるよりは実りが多いのではないかということです。

先の例でいえば、二〇一八年現在、日本では過去の優生政策により障害者に対する強制的断種手術が行われたことが問題視さ

れていますが、これも最初は当事者の証言を真剣に聞き、証拠となる資料を探した歴史家の努力がありました。また、地球温暖化問題が最初に話題になったときには、それがシミュレーションに基づく推論であることが問題視されましたが、現在はそうした手法が科学的推論の一つとして認知されています。

以上のことを踏まえるならば、むしろ、「複雑な対象を前にして、価値中立を掲げることが持ちうる政治性」こそが念頭に置かれなければなりません。すなわち、マジョリテイの価値観に浸っているために自らの政治性が自覚できていない状態のことを、「中立」という名で呼び変えていないかどうかを、改めて問い直す必要があるでしょう。

それに加えて、人間の理性の限界という問題もあります。実際、本人は真剣に研究をしている場合でも、無意識のバイアスで、ある証拠を完全に見逃し、自分の論点を支持する証拠ばかり集めるということがありうるからです。一九世紀において、女性の知性が男性に劣るとの見解を出したいくつかの研究には、明らかにこのような傾向がみられました。

同時に言えるのは、「学問は現実の対象に近づくほど不可避の政治性を帯びる」ということを踏まえて、それでも学問的方法論に根ざして言葉を紡ぐことの大切さです。物理学のような法則定立的な方法にしろ、歴史学のような個性記述的な方法にしろ、定量的な社会学のようにその中間的なものにしろ、それは世界を認識する異なったやり方として、数世代にわたり様々なテストを生き残り、受け継がれてきた人類の遺産なのです。

私たちはバイアスのかかったやり方でしか世の中を見ることはできませんが、諸分野の方法というのは、地域や文化を超えて人々が選び取ってきた、いわば、体系的のあるバイアスです。体系的なやり方で、違う風景を見て、それを継ぎ合わせる。または違う主張を行いながらも、それを多声音楽のように不協和音も込みで重ねあわせていく。そのことこそ、様々な分野が存在する本当の意義があるのではないのでしょうか。

(隠岐さや香『文系と理系はなぜ分かれたのか』による)

問一 傍線 a「政治的な対立を交えた激しい論争」とあるが、この「論争」についての記述として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

1 社会生物学の提唱者と批判者は、社会的影響への配慮の必要性について見解を異にし、相手こそが政治イデオロギーを反映していると相互に批判した。

2 社会生物学の批判者は、ヒトの利他的行動は自分と近い遺伝子を効率よく残すためだとは言えないので、人文社会科学は生物学の一分野になり得ないと主張した。

3 社会生物学の批判者は、社会生物学の主張はヒトの経済的不平等や社会階級、性別役割分担を固定化しようとするもので、経済の発展を阻害する政治運動であると指摘した。

4 社会生物学者は、科学で解決できない社会的・倫理的問題はないと考え、女性の役割や同性愛者、経済的不平等といった問題に対して社会生物学的仮説にもとづいた記述を行った。

5 社会生物学者は、人間の生得的性質と環境の関係について研究する自由を批判者たちが損なおうとしているとし、人文社会科学は自然科学の領域に立ち入るべきでないと反論した。

問二 傍線 b「両者」は、何を指しているか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

1 学問の統合と分化

2 定量的分析と定性的分析

3 社会生物学と行動生態学

4 社会生物学と人文社会科学

5 数学を用いる形式化・定量化と科学哲学

問三 傍線 c「そうした分野は、學術コミュニティを超えた政治的な論争にも巻き込まれやすい」とあるが、その要因として当てはまらないものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 現実の社会問題に関わる複雑な課題は、自然科学・人文社会科学の学際的な研究をもつても扱えないこと。
- 2 クロイン人間を造つてよいかといったような問題は、科学では答えが求められない性質の倫理的問題を含むこと。
- 3 多くの人に関わる社会問題は、學術コミュニティ以外の人々の関心も惹きつけて、論争が誘発されやすくなること。
- 4 時間をかけたり人体実験をしたりして検証すれば答えが出るかもしれないが、社会的にそれは困難な場合が多いこと。
- 5 予防的措置が動き出すと、科学的な結論が不確定で研究に不備や政治的偏向があると主張する反対論者が出てくること。

問四 傍線 d「複雑な系を扱うがゆえの不確実性も政治を呼ぶ」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 どんな学問分野でも、特定の党派的な価値観を反映して、ある情報は採用され、ある情報は減らされるから。
- 2 人間は常に理性的ではあり得ないため、対象が複雑になると、學術的論争と政治的論争を区別できなくなるから。
- 3 経済活動のような人間社会の複雑な営みは、自然現象とは異なり、どんなに研究しても確実な予測ができないから。
- 4 どんな学問分野において、どれだけ確かな方法を駆使しても、世界を完全に認識し、記述できるシステムはあり得ないから。
- 5 ある学問が人間社会に関わる切実な対象を扱う場合、學術的な結論に政治的偏向があっても、現実の政治が動き始めるから。

問五 傍線 e「ある社会的課題を扱う／扱わない、という選択自体が、既に一定の政治性を帯びています」とあるが、どうか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 マジヨリテイが関心を持たない問題を敢えてテーマに取り上げることは、マジヨリテイから警戒されるということ。
- 2 あるテーマが中立的か偏っているかという判断は、その学問分野の価値観に左右され、評価が変動するということ。
- 3 マイノリテイしか関心を持たないテーマは、選択しても、それが政治的信念の表明であることが目立たないということ。
- 4 研究者が学問の基準に則して誠実かつ理性的にテーマを選択しても、独裁政権下では政治的偏向とみなされうること。
- 5 テーマを選択することは、研究者の側にその意図がなくても、社会における何らかの立場表明としての意味を持つということ。

問六 傍線「」検証する対象を増やす方が、検証の厳密さを求めてそれを避けるよりは実りが多いのではないかとあるが、それはなぜか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 確実さにおいて劣る要素を判断材料に用いることで、過去の事例の問題点を浮き彫りにできることもあるから。
- 2 役人が作成した文書記録や定量的な証拠だけでは、政治的な意図や忖度による改ざんを見落とす可能性があるから。
- 3 検証する対象を増やすことで、コンピュータによるシミュレーションも科学的推論として認知されるようになったから。
- 4 多少不確かでも、より多くの材料を証拠として持ち込んだ方が、マジョリティに受け入れられる成果を生みやすいから。
- 5 検証の厳密さのために検証対象を限定すること、ある組織や人物にとって不利な証拠を隠蔽することとは区別できないから。

問七 傍線 g「価値中立を掲げることが持ちうる政治性」とは、どういうことか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

1 人間の認識能力は不完全なので、最初は価値中立的に振る舞っていても、いつの間にか偏った価値観に寄ってしまうことがあるということ。

2 価値中立を守ろうとすると、予防のための政策をとることができないので、結局はある政治的立場を追認するしかなくなるということ。

3 ある社会で中立と考えられている価値観も必ずしも中立的でなく、偏りを持った政治的信念の一種であるということに気づきにくくなるということ。

4 偏った価値観を持つ人びとが自分たちこそが価値中立的だと主張するので、真に価値中立を保とうとする人が政治的論争に巻き込まれてしまうということ。

5 マジョリティ側の人間は、マイノリティ側の主張の方が価値中立的な場合があることを理解せず、自分たちの価値観の中立性を主張して譲らないということ。

問八 本文からは次の一文が脱落している。入るべき箇所は本文中の **I** ~ **V** のどこか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

科学的に確定が困難な要素を含む問題だが、「今現在」社会的合意が必要となってしまうのです。

1

I

2

II

3

III

4

IV

5

V

問九 傍線h「そのこと」とはどのようなことか。本文に即して四十字以内(句読点を含む)で説明せよ。

(二) 次の文章はロバート・キャンベル『井上陽水英訳詞集』の一節である。これを読んで後の問に答えよ。

『二年有半』は中江兆民の随筆集です。病室で、陽水さんの曲を英訳しているあいだ、文庫本で読み直しながら、心にとまった言葉を書き写したりしていました。

明治期に欧州の民権思想を日本に紹介し、当時から「東洋のルソー」と呼ばれた兆民は「民権是れ至理也、自由平等是れ大義也」と唱えて藩閥政府を攻撃し、思想のみならず経済・外交・人物論まで、徹底的かつ透徹した文明批判をくり出していきました。

1901年4月。前年の秋から喉に異変を覚えていた兆民は、旅先の大阪で喉頭癌であることを告げられます。この時代、日本でもヨーロッパでも、医師が治療に当たって患者の症状から生存確率をはじき出し、診察室で余命の歳月を伝えることはまだなされていませんでした。

しかし兆民は、診察室で、自らの臨終まで何カ月と何日かという正確な日数を医師に問いただしています。医師は言いにくそうに答えました。「あと18^aカ月、養生してもせいぜい2年間だ」と。

一生が終わると知って、兆民はむしろ絶望的なゼロがあるからこそ自我が立ち上がり、無に向かうからこそ自分のありようを掘り下げることができると着想するのです。自らの「時限」を睨み、気合を入れ直したのです。

病床で綴り、最バンネンに日の目を見る随筆集『一年有半』『統一^ロ年有半』は、診察室での宣告から死に至るまでの推定時間、すなわちゼロへとカウントダウンされる「一年とその半分」『一年有半』をタイトルに選んだのでした。「残りの人生の始まり」というポジションから捉え直す瞬間。文中にこんなことを語っています(現代語訳キャンベル)。

ところでわたくしの癌腫にとつて、一年半という時間の流れはどんな存在であろう。彼はゆつくりと彼の身の丈に合わせて進み、だからわたくしもわたくしの身の丈に合わせて、少しずつ進んで、わたくしの一年半をここに記述しようとしている。片方の一年半は病であり、わたくしではない。もう片方の一年半は日記である。これはつまり、わたくしそのも

のだ。

妻の介護を受けながら、兆民は中之島にある旅館で腫瘍の進行を緩める対症療法を行い、こつこつと随想を記していきます。結局予期していた「一年半の約束期限は大分短縮され」(幸徳秋水『続一年有半』引)、2ヵ月ほどで『一年有半』は書き上げ、その続編も10日間ほどで脱稿はしたけれど、気管に挿入してあったカニューレの故障などに苦しみながら、兆民は同年12月に客死した**b**のでした。偶然54歳という、心臓手術に臨む私と同じ年でした。

弟子の幸徳秋水が原稿を受け取り編集した『一年有半』は、1901年9月に東京の博文館から刊行されましたが、著者の癌で失われる声と壊れゆく肉体への観察と「古今を笑殺し一世を罵倒する」痛快な社会批判は当時の若者たちの称賛を集め、刊行後1年で23版という驚異的な増刷を重ね、ベストセラーになりました。

ところで編集を担った秋水は10年後、天皇暗殺をクワダてたとして死刑に処せられますが(大逆事件)、考えてみると、秋水もまた自ら「時限」を区切って生きていたひとりの表現者だったのかもしれない。

私の病室で、小波が揺れるようなスローリズムに乗って「君によせる愛はジェラシー」がくり返されています。

どうやら 僕等は海に来ているらしい

ハンドバッグのとめがねが

はずれて化粧が散らばる

波がそれを海の底へ引き込む

ジェラシー

「ジェラシー」を聴きながら、終わって振り返る色恋以上に何か大きな、とてつもなく大切なものがゆっくりと目の前で「海の底」へとさらわれてゆくイメージを結びました。

ベッドサイドにあつたもう1冊の文庫本を開くと、いよいよその感を強くしました。

病牀しょう六尺、これが我世界である。しかもこの六尺の病牀が余には広過ぎるのである。僅かに手を延ばして畳に触れる事はあるが、蒲団の外へまで足を延ばして体をくつろぐ事も出来ない。

これは正岡子規の遺作で近代隨筆の白眉c『病牀六尺』(1902年初版)の書き出しです。不治の病とされていた結核から脊椎カリエスを発症し、死の床にいた子規。想像を絶する「苦痛、煩悶二、号泣、麻痺剤」の凄まじい状況は、ページをめくるごとに浮き上がってきます。

内容からして意外に思われるかもしれませんが、入院中、私はタブレットで陽水さんの歌詞を味わいながら、ベッドサイドに積んだ文庫本を毎日少しずつ、一心に読んでいました。

たった六尺。たった181・8センチを小さく不自由になったわが身には広すぎると言い、だが「死ぬまで言いたいことを言うのだ」ときっぱり書きつける子規の『病牀六尺』は、今は文庫本というパッケージで読めるけれど、もともと、『日本』という新聞で日々更新される時の刻みそのものを読者に伝える連載エッセイでした。購読者であれば、ニユースをチェックし、同時に変化する子規の症状、その苦樂のようとりアルタイムで伴走することができたわけです。

「病氣を楽しむくらいでなければ面白みはない」と突っ張る一方、菌が脊椎を破壊して骨が膿うみになって皮膚から流れ出るというカリエスの悲惨にしくしくと泣き、自殺まで頭によぎらせ、たまに美人が見舞いに来るとはしゃぎながら、よくぞここまで書き続けたと100回の連載を感慨深く振り返る子規でした。

100回目は8月20日に発行されます。新聞社に原稿を送るためにあらかじめ用意させた300枚の返送用封筒は100枚分

減っていました。言い換えれば枕元にはまだ200枚の山。健康であれば何ということもない数ですが、一日一話、血のにじむような思いでペースを維持する子規にとつてみれば、原稿の封筒も、血圧、体温、便通と同じくらい自分の生を確かめ得る大事な指標になっていました。

何回続けられるか。最初から300枚で足りるのか、それとも余るのか、そう思いながら頭の中では封筒を一枚一枚数えていたに違いありません。

これを使い切るころは2月、春の魁まがけです。しかし「果して病人の眼中に梅の花が咲くであらうか」。結局『病牀六尺』は全127回、終了したのは子規が亡くなる2日前の9月17日です。34歳で、兆民が大阪で世を去った翌年のことでした。

私は「死無」という切ない「時限」^fを測りながら、それに向かつてゆく彼の姿勢に胸がいっぱいになりました。「子規」とはもともと、ホトトギスの意味です。嘴くちばしの紅いホトトギスを結核で紅い血を吐く自分の唇に重ね合わせていたのでした。

(ロバート・キャンベル『井上陽水英訳詞集』による)

問一 傍線イ、二の読み方をひらがなで記せ。

問二 傍線ロ、ハのカタカナを漢字で記せ。

問三 傍線a「養生」を用いたことわざに「医者の不養生」があるが、このことわざと意味が異なるものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 士族の商法
- 2 紺屋の白袴
- 3 左官の粗壁
- 4 儒者の不身持ち
- 5 易者身の上知らず

問四 傍線b「客死」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 覚悟の死
- 2 非業の死
- 3 無念の死
- 4 旅先での死
- 5 惜しまれての死

問五 傍線c「正岡子規」の友人で、雑誌『ホトトギス』を作品発表の場の一つとした作家は誰か。次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 太宰治
- 2 夏目漱石
- 3 樋口一葉
- 4 尾崎紅葉
- 5 芥川龍之介

問六 傍線d「白眉」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 他に類を見ない特殊で異端なもの。
- 2 その分野において最も典型的なもの。
- 3 新たな時代の扉を開いた先駆的なもの。
- 4 一連の作品をまとめた集大成となるもの。
- 5 数多くあるものの中で最も優れているもの。

問七 傍線e「果して病人の眼中に梅の花が咲くであらうか」とあるが、これは子規のどのような心情を表現したものと考えられるか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 自分と同じく闘病している家族の身を案じている。
- 2 病のために徐々に衰えつつある視力を心配している。
- 3 梅の花が咲くまでは必ず生きようと強く決意している。
- 4 病気を楽しもうという前向きな気持ちが見なざっている。
- 5 自分がいつまで生きることができるか心許なく感じている。

問八 傍線「時限」とあるが、筆者は「時限」というものをどのように捉えているか。適切でないものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 心臓手術を控えた自身にとって、考えずにはいられない切実な問題。
- 2 中江兆民や幸徳秋水、正岡子規といった過去の表現者の生き様を考える上で鍵となる概念。
- 3 無に向かうからこそ自分のありようを掘り下げることができると気付かせてくれる考え方。
- 4 絶望的な事実だが、そこから目を背けることによって新たに生きる力を得ることもできるもの。
- 5 「死」無」を考えると切ないが、「残りの人生の始まり」として現在を前向きに捉え直すことを可能とする発想。

(三)

次の文章は平安末期に藤原清輔が著した歌学書『袋草紙』の一節である。これを読んで後の問に答えよ。

忠岑、宣旨によりて歌を献りて云はく、

A 白雲の下り居る山と見えつるはたかねの花や散りまがふらん

躬恒云はく、「府生大いに誤れるか。帝王に奏する歌に「雲の下り居る」とは、争で詠まんや。帝位をば「雲の上」と云ひ、位を避くるをば「下り居給ふ」と申す。就中、末句に「散りまがふ」と詠める、もつとも禁忌あるべきか」。

予これを案ずるに、帝王の御前にて「下る」と云ふこと、もつとも禁忌あるべきか。ただし、拾遺抄に云はく、「康保三年二月二十一日、梅花の下に御椅子を立て御宴あるとき、源広信朝臣歌ひて云はく、

B おりてみるかひもあるかな梅の花いまこのへにほひまさりて」

これも禁忌あるべきか、如何。ただし、かれは「雲の下り居る」とつづきたる故、重きか。かくの如き物語、多くは実なきか。ただし、末代の作法、かくの如きこと避くるには如かざるか。郁芳門院根合に、周防内侍の歌に、「わがしたもえのけぶりなるらん」と詠める、また人の、「もえむ煙のそらにたなびく、禁忌あるの由人申しけり」と云々。作者の凶かと思ひしに、先づ女院崩御の後にぞ内侍は隠れにしとぞ、俊頼朝臣書き置ける。

頭昭考へ云ふ、このこと俊頼髓脳にあり。ただし、

X

に云はく、「延喜の御時、躬恒を召して仰せて云はく、

「月を弓張と云ふことは何心ぞと、これが由仕れ」と仰せらるれば、階下に候ひて仕る。

C 照る月を弓張としも云ふことは山辺をさしていればなりけり

祿に大桂かづき了んぬ。また、

D 白雲のこのかたにしも下り居るは天つ風こそ吹きてきつらし

と云々。ある人云はく、「この歌を聞きて、貫之難せり」と云々。ただし、定説は知り難きか。ただし、後撰の歌に云はく、

E 白雲の下り居る山と見えつるはふりつむ雪のきえぬなりけり

然り而して江記に云はく、「人々慶賀の由を周防内侍が許に遣はし^ホしは、如何。これ十番の歌、宜しきの由なり」と云々。

同根合のとき、右一番の歌に、「たづの居る」と詠める後、左より難じて云はく、「たづ」とは宇治殿の童名なり。然るべからず」と云々。匡房云はく、「Y をさることいまだ聞かざることなり」と云々。

中納言の中將忠実、童名は牛なり。自今以後牛の字を言ふべからずとは、如何。近頃の例、牛の字を詠むと云々。

〔注〕 躬恒…平安前期の歌人、凡河内躬恒。

府生…平安前期の歌人、右衛門府生壬生忠岑のこと。

拾遺抄…藤原公任の私撰和歌集。

郁芳門院根合…寛治七（一〇九三）年五月五日、白河天皇の皇女郁芳門院のところへ催された根合せ。根合せは物合せの一種で、端午の節句に、左右に分かれて菖蒲の根の長短を比べながら行われた歌合せ。

「わがしたもえのけぶりなるらん」…上の句は「恋ひわびてながむる空の浮き雲や」。五番恋の右の歌。

俊頼…平安後期の歌人、源俊頼。歌学書『俊頼髓脳』の著者。

顕昭…平安末〜鎌倉初期の歌人・歌学者。藤原清輔の義弟。

後撰…『後撰和歌集』。

江記…大江匡房の日記。大江匡房は平安後期の学者・歌人。この根合せにおける撰者。

十番の歌…歌合せの十番（五番恋の右）の歌。つまり、前掲の周防内侍の歌。

宇治殿…藤原頼通。

問一 傍線 a「実なき」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 くだらな
- 2 誠意のない
- 3 本当のことではない
- 4 思いやりのない
- 5 実りのない

問二 傍線 b「避くるには如かざるか」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 回避する必要はないのではないか
- 2 回避するに越したことはないのではないか
- 3 回避するようなものではないのではないか
- 4 回避することはありえないのではないか
- 5 回避するに違いないのではないか

問三 傍線c「もえむ煙のそらにたなびく、禁忌あるの由」とあるが、禁忌のある理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 空高くたなびいている煙は、天変地異などの不吉な出来事の子兆と捉えられるから。
- 2 空高くたなびいている煙は、やがては下りてくる浮き雲を思い起こさせるから。
- 3 空までのぼっていく煙は、雲より上すなわち女院よりも高い位に就くことを暗示するから。
- 4 空までのぼっていく煙は、死んで火葬に付されることを想起させるから。
- 5 高貴な人に、燃えて煙になってしまふくらい強く恋い焦がれることは、許されることではないから。

問四 傍線dの「し」と文法的に同じものは二重傍線イ・ロ・ハ・ニ・ホのどれか。次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | イ | 2 | ロ | 3 | ハ | 4 | ニ | 5 | ホ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

問五 傍線e「さしていれば」の「いれ」は掛詞になっている。掛けられている二つの意味に対応する漢字を一字ずつ記せ。

問六 Dの歌「白雲のこのかたにしも下り居るは天つ風こそ吹きてきつらし」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 白雲がこちらの方に下りてきそうだと。一方で、天空から風が吹いてきて雲の動きを止めようとしている。私の肩のこの大袿は、ずっと掛けられたままなのだろうか。
- 2 白雲がこちらの方に下りてきた。それなら、天空から風が吹いてきてもよいはずだ。私の肩のこの大袿も、帝がくださるものと交換することになるのだろうか。
- 3 白雲がこちらの方に下りてきた。ということは、天空から風が吹いてきたということだろう。私の肩に掛けられたこの大袿は、光栄にも帝がくださったもののようなものだ。
- 4 白雲がこちらの方に下りてきた。しかし、天空から風が吹いてきて雲を吹き飛ばしてしまっそうだと。私の肩に掛けられたこの大袿も、帝に取り上げられそうだと。
- 5 白雲がこちらの方に下りてきた。さらに、天空から風も吹いてきて荘重な雰囲気になってきたようだと。私もこの肩に大袿を掛けるような高い地位に就けるだろうか。

問七 空欄 Y に入る言葉を本文中よりそのまま抜き出せ。

問八 A～Eの歌の中で「宮中」の意味で用いられている言葉をそのまま抜き出せ。

問九 空欄 X に入る作品を次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 土佐日記
- 2 大和物語
- 3 枕草子
- 4 和漢朗詠集
- 5 狭衣物語

